どっちに行こうか？　何をしようか？
固まってしまうあなたへ



http://faithcenter.wordpress.com/2010/03/05/the-head-heart-war-by-elaine-davenport-march-5-12-2010/balance-heart-and-mind/

安渓遊地と安渓貴子の自己紹介

ある島をたずねたら、いきなり聞かれた。
「あなたは何をする人？」
「誰のためにやってるの？」

返事01 👁見る人で
す（197 4西表島の廃村
1978 ケニア Lamu島）





ソーシャルディスタンス確保のわが鹿川村への道



02 聞く人です

（話者が確認する。
話者の名前で伝承
を本にする）

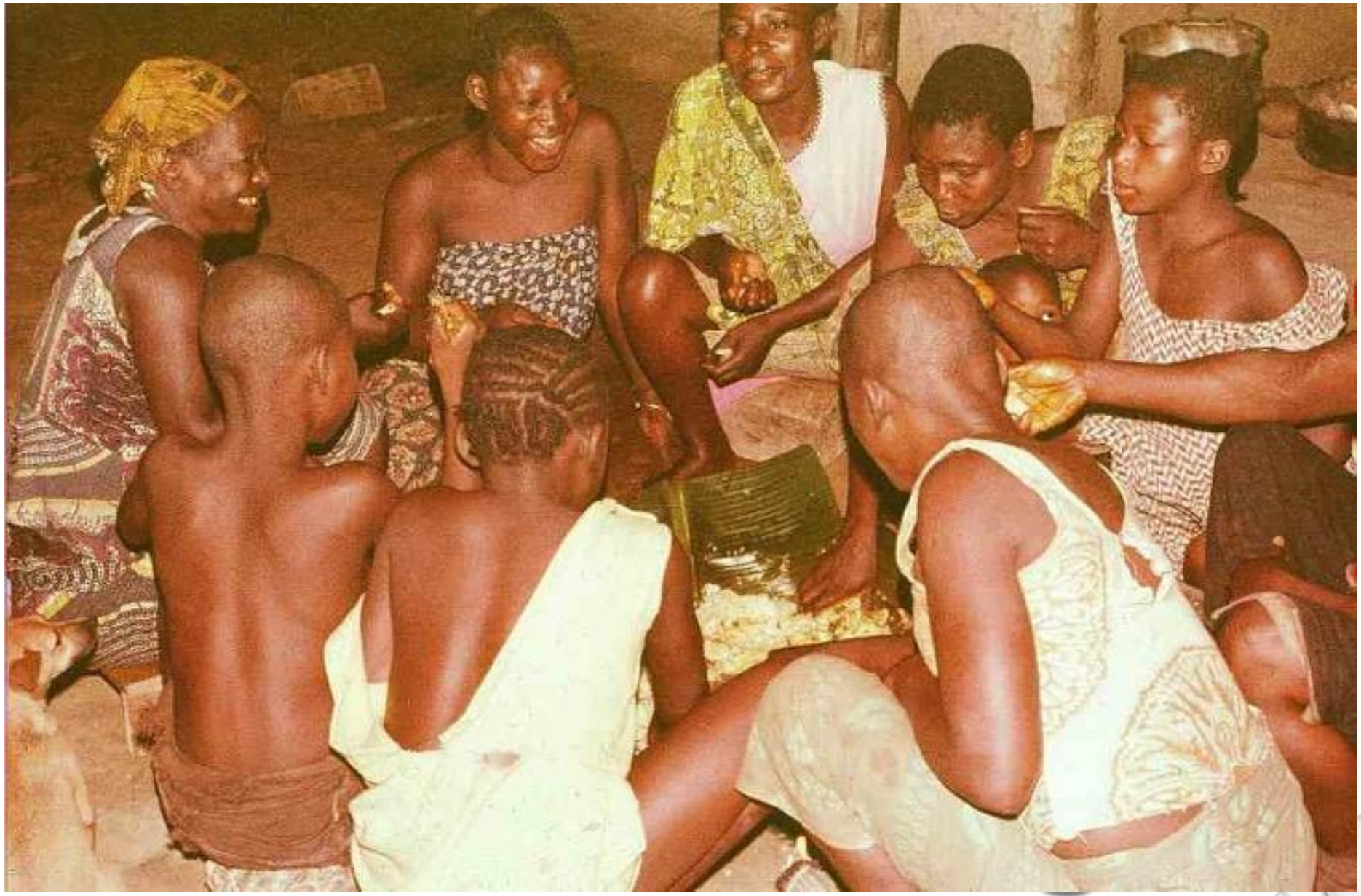




料理のノート整理を手伝ってもらう



03 味わう人です（コンゴ民主の村の新米）



04 ✋やってみる人です（青年祭に飛び入り参加）

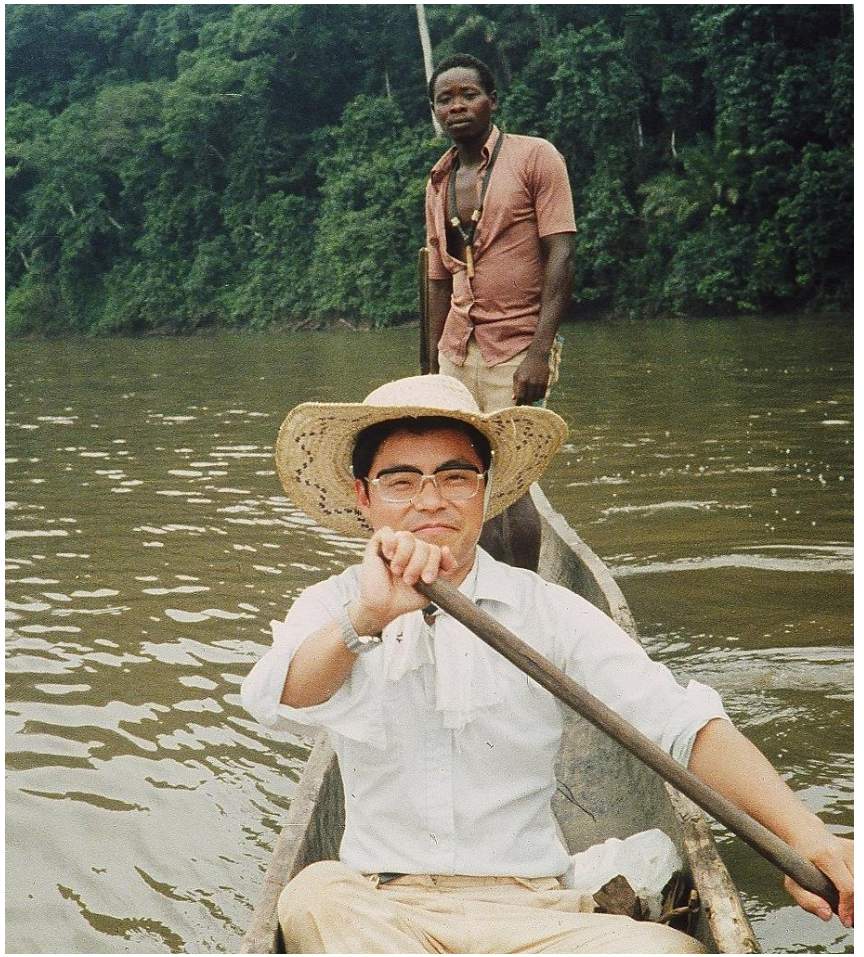




生態学の川那部浩哉さんの教え

海の事は海人に聞け
山の事は杣人（そまびと）に聞け





この年の安渓貴子の旅費は「リトルワールド」の収蔵品収集経費から７０万円

05🦶歩いて考える人です

（2026年４月石垣島で「カンムリワシの里と森を守る会」に協力）



上関の自然を守る会に協力

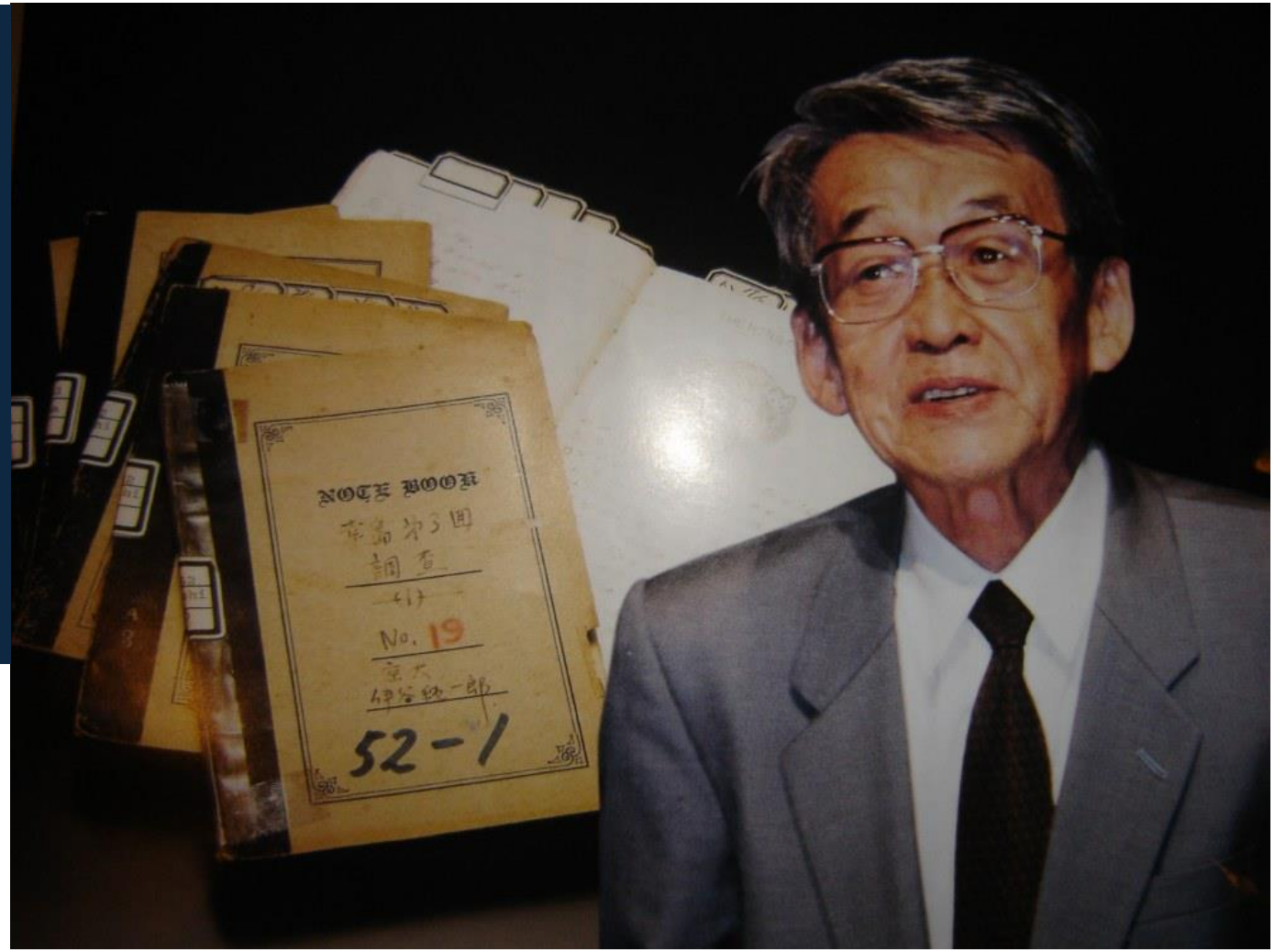


あなたは誰のために学んでいるのですか？

- 正解はありません。めいめいちょっと書いてみましょう。オカリナ１曲の間ぐらいで

サル・ヒト・アフリカの伊谷門下生に

「君の行くところは1か所しかない。イリオモテ島の廃村や。
人類学のフィールドはなぁ、遠けりゃ遠



伊谷純一郎先生（1926～2001）のユニークな教育は
→　https://ankei.jpで「伊谷」を検索してください。

調査地被害（宮本常一、1972）

渋沢敬三先生の教え――簡単のようで実に難しい

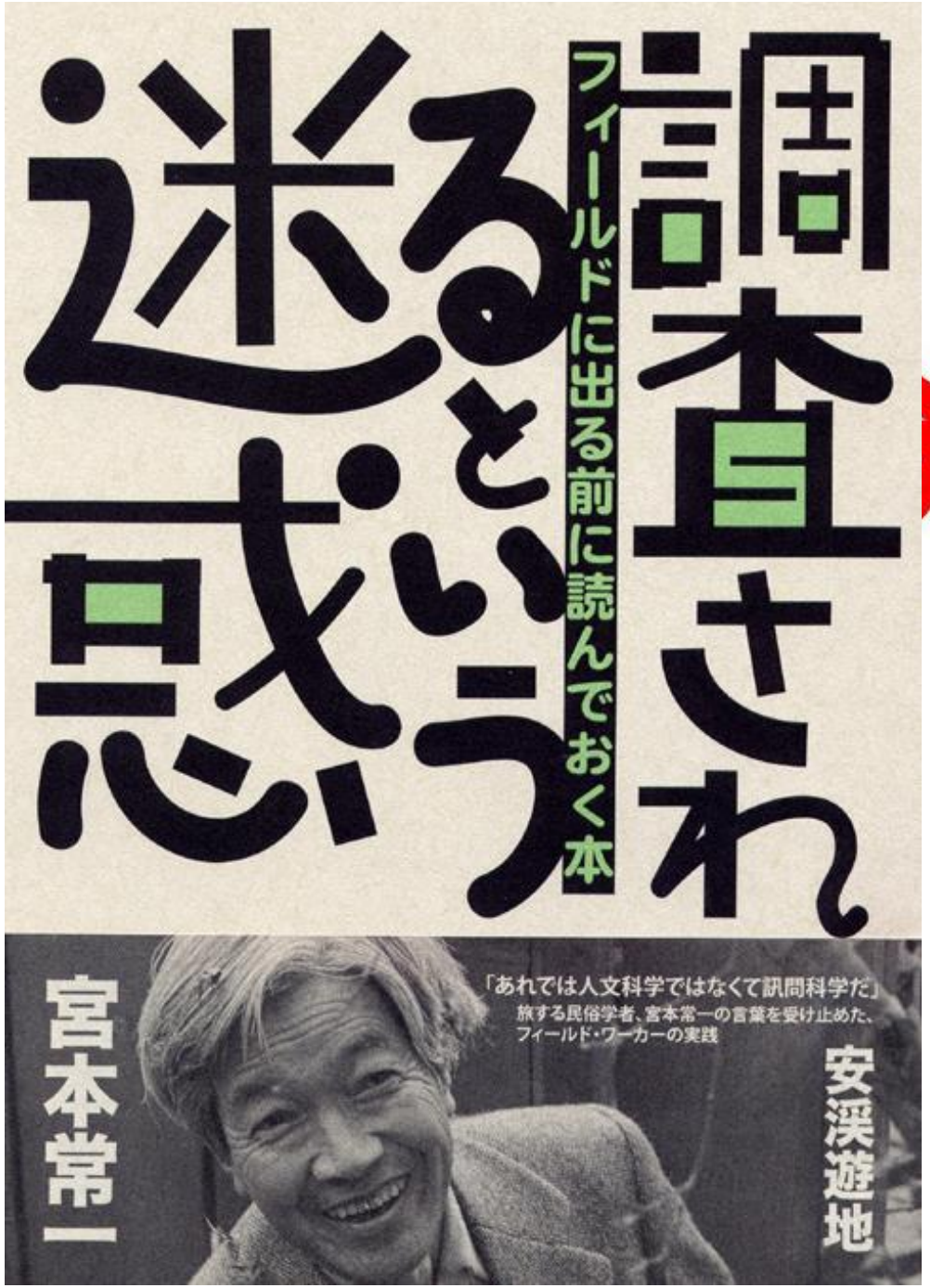
1．他人に迷惑をかけないこと

2．でしゃばらないこと

3．他人の喜びを心から
　　喜びあえること



宮本常一先生@Kenya山麓



何のための研究？誰のための研究？お金はどこから？

植民地支配のための道具として生まれた文化人類学。ユダヤ人識別に活躍した自然人類学

Study for whom? With whose money?
Cultural anthropology for colonization.
Physical anthropology to identify Jews.

運転免許の更新で見せられる怖いビデオ
この本は交通事故とひき逃げ事件事例集

学生への言葉（『キャンパスを飛び出そう』みずのわ出版 https://ankei.jp/yuji/?n=1661）

**　フィールドワークとは、机の上での勉強とちがって、五感のすべてを駆使して全身で学ぶこと。**

**　自動車の運転と同じく、細心の注意で事故を避け、事故のときにも絶対に「ひき逃げ」はしない。それができる人だけが、ハンドルをにぎっていいように、フィールドワークにもルールがあります。それが守れることを立証できた人だけが、キャンパスを飛び出してフィールドワークを経験してもいいのです。**

練習問題――酒気帯び限定免許？

- 島の家に招かれてお酒を飲んでいると、１時間ほどして近所のおじさんがやってきました。
- いきなり、私（当時23歳）にこう決めつけます。

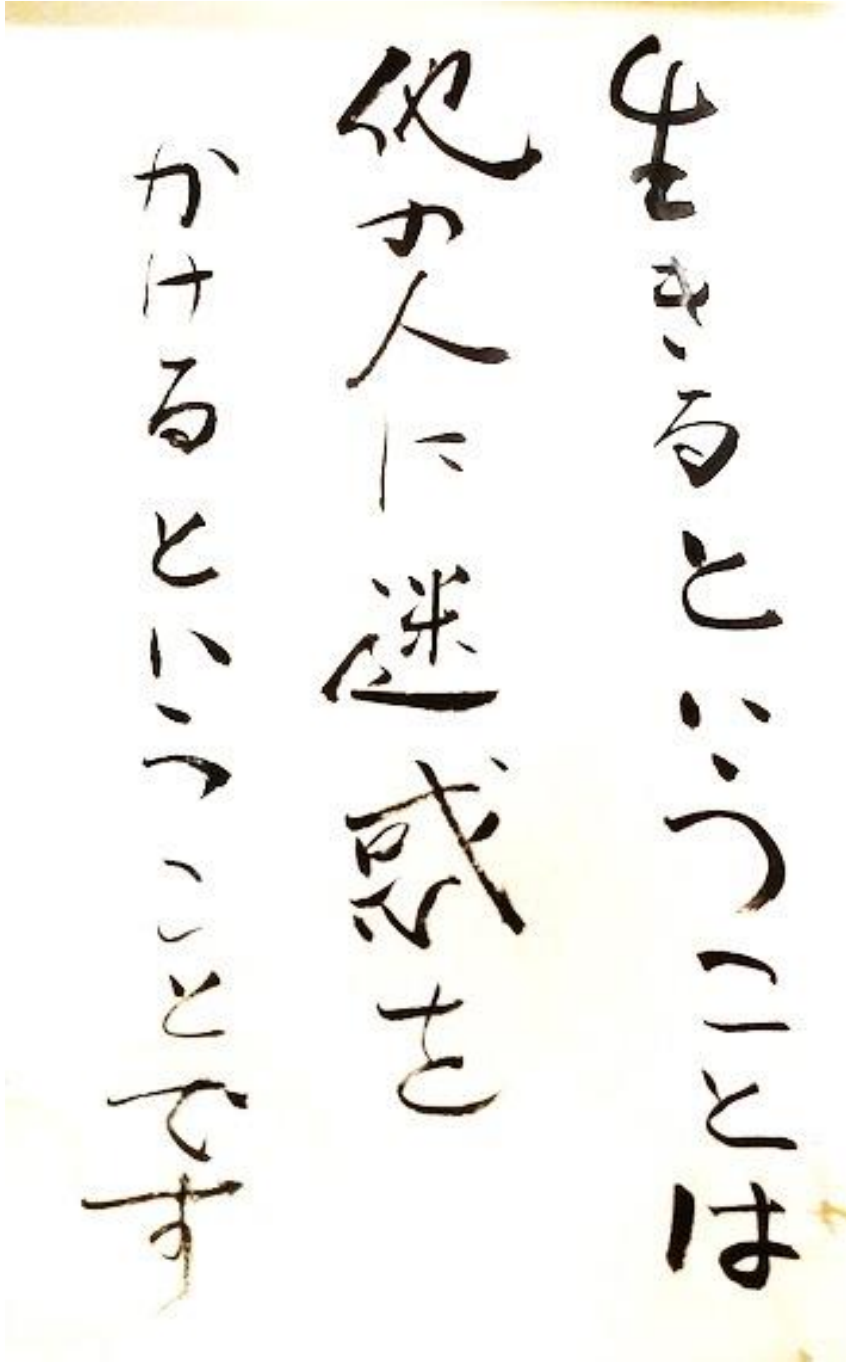
「おまえは、廃村調査とか偉そうなことを言ってるが、本当の目的はなんだ？墓をあばいて副葬品を盗む手引きでもしてるんだろう！

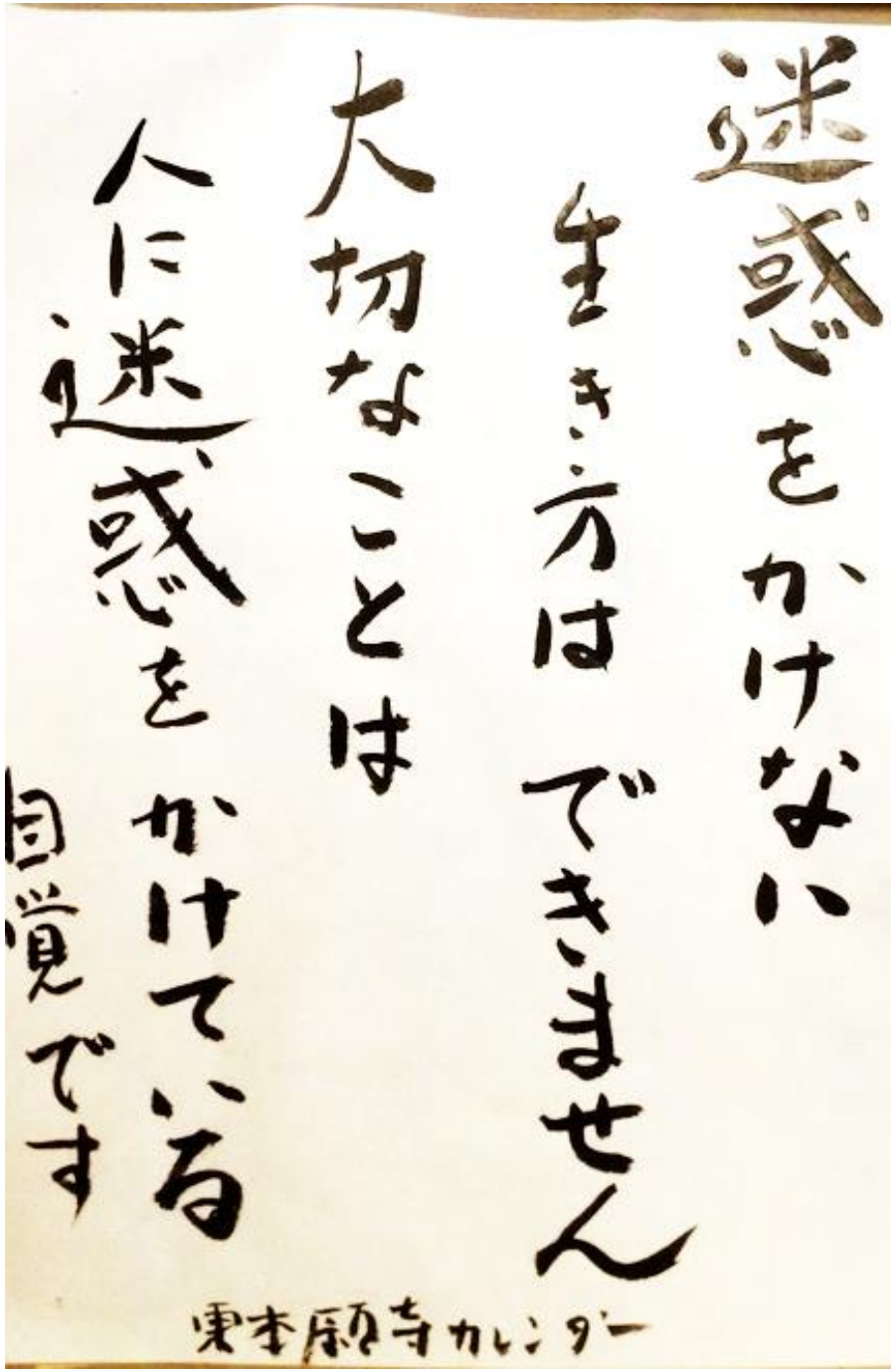
こいつらはだませても俺の目はごまかせんぞ」

そこで質問です。正解はわかりません。

かなり酔っておられる、こわそうなこのおじさんに、あなたならなんと答えますか？お隣さんと話し合ってみましょう。

台風の停電の中で話す



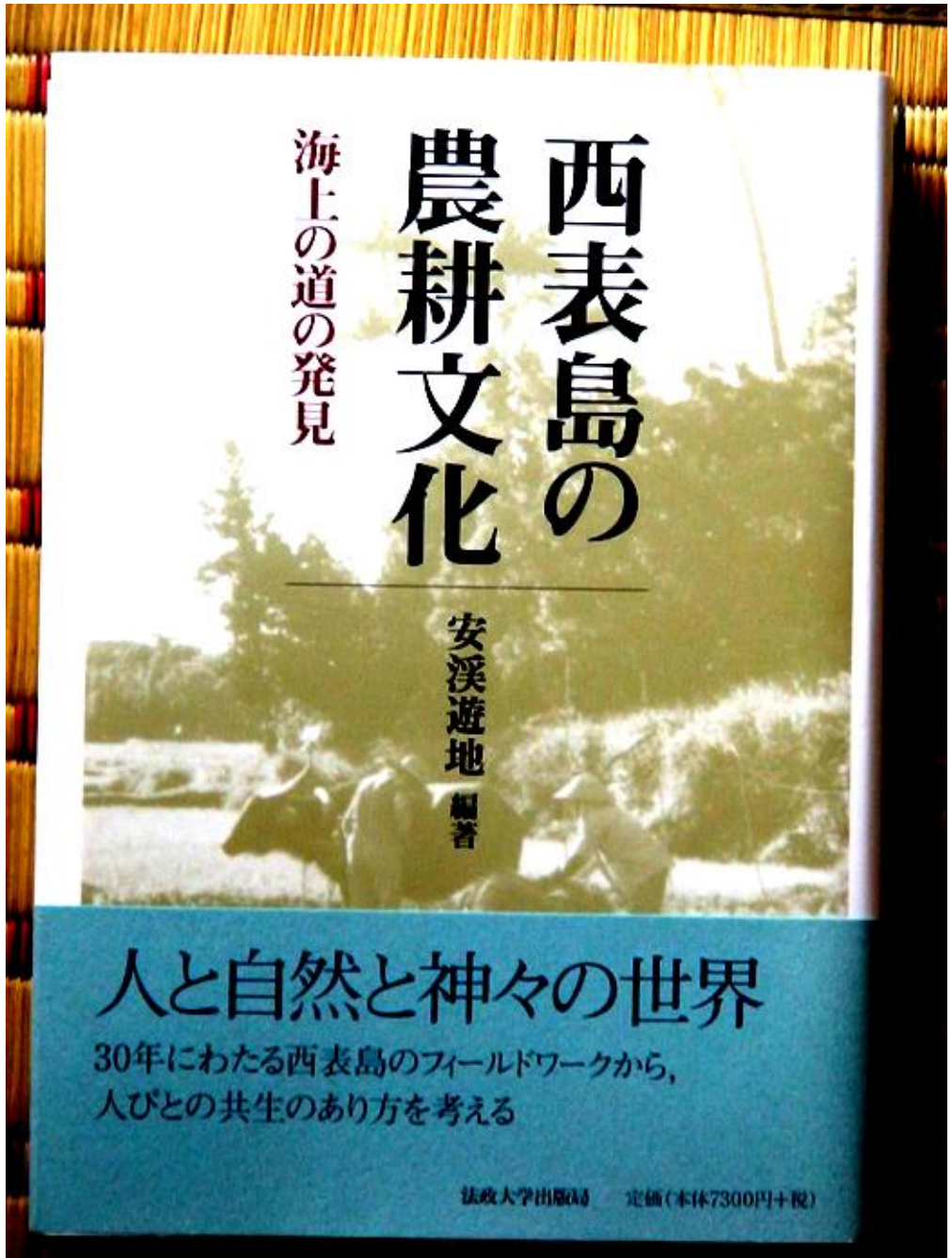


互いの人生の一部になる選択

事例：西表島の農業の歴史を勉強するために

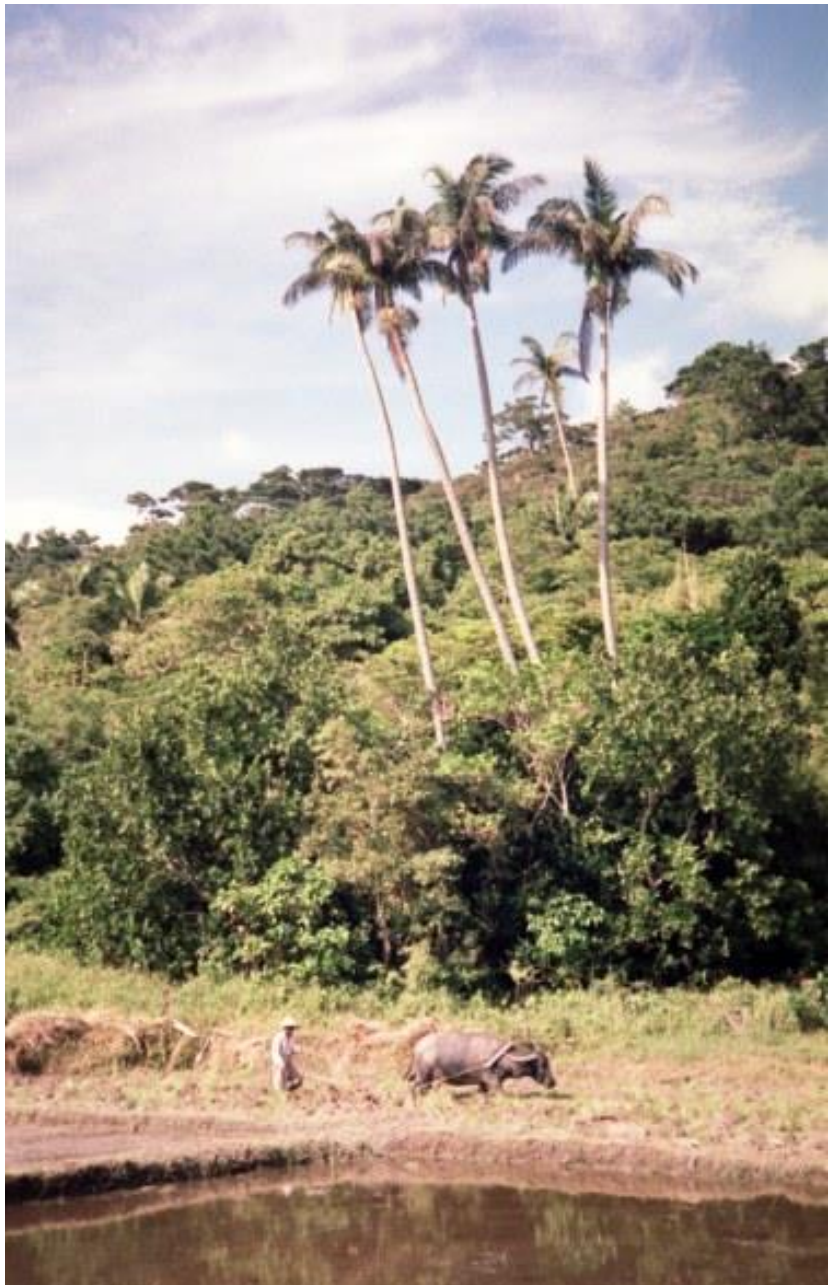
0．理学研究科在学中、あちこちよそへ習いに行く
1．調査されるという迷惑（宮本常一・移動大学1974）
2．考古学実習（京大文学部1974）
3．農学と稲の道（京大農学部・渡部忠世1976）
4．琉球古文書講読（島尻勝太郎・沖大1981）
5．人間の経済（玉野井芳郎・沖縄国際大学1983）

２００７年
西表島を中心とするフィールドワークの論文集
――1978年～1998年の文章を抜粋



日本農耕起源論に理科・文科を総合して迫る





在来稲の品種特性の分析と復元、
南の自然の中での栽培法の聞取

畑作・交易・精神世界も研究対象に







安渓遊地＋安渓貴子と島の方々との共著です

西表島鹿川、前底マナビ・◎屋良部亀のみなさま。　崎山、赤嶺ナシキ・◎川平永美・川平永光のみなさま。　網取、東若久和利・東若クヤマ・東若力三・粟野トク・伊泊文雄・石田正一・大山長考・大山八重・山田鐵之助・◎山田武男・山田シズ・◎山田（入伊泊）雪子のみなさま。　舟浮、池田稔・池田英・井上文吉・清水カメ・◎仲立孫次のみなさま。　祖納、東浜孫助・粟野実・石垣昭子・◎石垣金星・西表全星・西表貞子・◎西表全彦・大浜孫慶・大浜長貞・◎古見用美・古見タケノ・古見与志人・古見用全・下田正夫・新盛行雄・◎新盛浪・玉代勢秀文・玉代勢クヤ・田盛インツ・◎田盛雪・那根亨・那根武・那根弘・那良伊茂・那良伊正伸・那良伊孫一・那良伊宇子・那良伊孝・波照間マエツ・花城政子・◎星勲・星千恵・星洋光・前大用安・前底正一・前津克子・前泊ツヤ子・松山忠夫・◎宮良全作・宮良里・宮良孫勇・宮良用茂・宮良チエ・宮良用範・本原勉・山城孫勇のみなさま。　干立、新城寛好・新城トヨ・新城節子・石垣長有・稲福伊勢戸・稲福峯・宇保泰金・大浜正演・加藤廣一郎・小底貫一・◎宜間正二郎・宜間照子・◎黒島英輝・◎黒島寛松・黒島シズ・慶田盛富士・慶田盛ミツ・崎枝泰明・崎枝政子・西銘二郎・西銘スミ・平得石三・真謝永暉・真謝光・前鹿川武吉・美佐志義一・与那国美津・匿名のＡさんのみなさま。　浦内／干立、黒島ナサ・◎与那国茂一のみなさま。　上原／鳩間島、慶田城勇さん。　中野、津嘉山彦さん。　古見、安里正一・新本ウナリ・次呂久弘起のみなさま。　大原、新珍健・西大舛高一のみなさま。　大富、高江州元徳・三浦三郎のみなさま。　南風見／豊原、大底功さん。　竹富島、上勢頭英元・◎上勢頭亨・大〔おお〕山功・加治工要佐・島仲長正・高那真牛・仲盛長扶のみなさま。　黒島、高那真牛・竹越堅一・竹越トミ・東盛ヲナリのみなさま。　小浜島、大嵩秀雄・大久〔だいく〕保久利・仲盛長扶のみなさま。　波照間島、後底阿良加・仲本信幸のみなさま。　与那国島、東浜永成・池間苗・入仲誠吉・浦崎栄昇・大新垣小枝子・我那覇尚・久部良勇吉・崎枝英好・東迎仁太郎・泊千代・泊祖良・外間守之・前粟蔵ウナリ・前粟蔵加禰・与那覇仁一のみなさま。　石垣島四箇、平良太郎・石川正芳・仲本賢尚のみなさま。　石垣島川平、大底シゲ・仲野金雄・仲間正位のみなさま。　本部町伊豆味、又吉ヒロ子さん。　今帰仁村与那嶺、仲宗根小五郎・仲宗根亨・湧川義雄のみなさま。　国頭村安田、大城ヨシさん。　国頭村奥、宮城久元・宮城親昌のみなさま。　加計呂間島西阿室、祷臣雄・祷正己・祷ミカのみなさま。　屋久島、大石浩・中島キヨ・本溜ケサ・牧ハルエのみなさま。　種子島西之、日高留哉さん。　ある南の島、匿名のＰ夫さん・Ｐ子さんのみなさま。（本文より。◎は、とくに長時間お話しをうかがった方々）

タイムス 2007.6.2

平積み

西表島の農耕文化

安渓遊地編著

稲とサトイモ栽培史を考察



（法政大学出版局・7300円）

本書は、著者が三十年にわたって、独特の自然認識法を有する西表の人々から自然と人との関係を取り持つイネの栽培法を学び、西表島の農耕文化を農学的、文化人類学的に構築する中で、日本の稲作民族の移動について発言した優れた研究書である。全体は第Ⅰ部「稲作の世界―人と自然と神々」、第Ⅱ部「畑作―南からの道、北からの道」、第Ⅲ部「橋をかける―島々の交流をめぐって」で構成されている。

第Ⅰ部は西表島における伝統的稲作について、在来イネ品種のサンプルを基に綿密な聞き取り調査を実施し、文献研究と合わせて考察をふかめている。著者は、『成宗大王実録』中に認められる沖縄本島の二期作イネ〈タイプⅡ〉と八重山の伝統稲の品種〈タイプⅠ〉は別品種であることを農学的に実証した。かなり古い時代にはタイプⅠの品種が南島全体に分布していたが、八重山へは藩政期に至ってタイプⅡのイネが導入されたという。これは、正に南から北へと進んだイネの道を示す学説で、柳田國男の「海上の道」に通ずる。

第Ⅱ部では夫人の安渓貴子氏がサトイモ科植物の栽培実験研究を試み、困難な植物学的品種の同定に成功した。氏は、十三世紀半ばまで琉球弧ではサトイモが主食であったことも突き止めた。さらに琉球弧から屋久島南半分に熱帯系サトイモが分布し、屋久島北半分以北に温帯系サトイモが分布する新事実も発見した。それはイネの分布とも重なる。言語学上、古層に属するヤマノイモの方言名を沖縄、宮古、八重山では共通にウム、ンム、といい、サトイモは宮古、八重山ではムチ、ムジゥと称されて沖縄と断絶するのにも対応している。ンムがオーストロネシア語の再構形ウンビに連続することは、比較言語学者の学説とも繋がり、イモを携えてきた人の足跡を示すものとして興味深いものがある。

第Ⅲ部は与那国や竹富、黒島でのフィールドワークを基にしたリポートやエッセーが中心である。全体的に島々の語り部に農耕生活を語らせ、歴史を語らせる中から文化のありようを模索する手法は、カルチベイト（農耕）が文化の源泉だったことを確認させられる。（加治工真市・県立芸術大学名誉教授）

……

あんけい・ゆうじ　1951年富山県生まれ。沖縄大学講師などを経て、山口県立大学教授。著書に『島からのことづて』（安渓貴子と共著、葦書房）など。

ヤマネコ印西表安心米の挑戦

・イリオモテヤマネコと共存できる有機産直稲作を

1477年　稲作の初記録
1986年　農薬散布強制
1989年　安心米スタート
1991年　合鴨稲作開始
1998年　借金返済終了
2006年　後継者の帰島



西表安心米生産組合
0980 85 6302



(c)安渓遊地

「地域を教科書に」学んだ論文が地域での教科書に（2006～）



2007年9月、西表島にて。町史編さん委員会西表島部会月例会では、昨年来、安渓の「西表島の稲作」「西表島の焼畑」を教材として朗読しながら、地元の方々がユンタク（自由なディスカッション）。

撮影：永岡久美子さん　企画：里井洋一さん（琉大）

1477年済州島民漂流記
八重山在来稲・1度植えて2度収穫もできた



수전(水田)은 12월 사이에 소를 사용하여 밟아서 파종(播種)을 하고
水田則十二月間, 用牛踏播種

よなぐに1923年



本山桂川　撮影

『与那国 沈黙の怒涛 どぅなんの100年 』与那国町発行　より

与那国島の水田





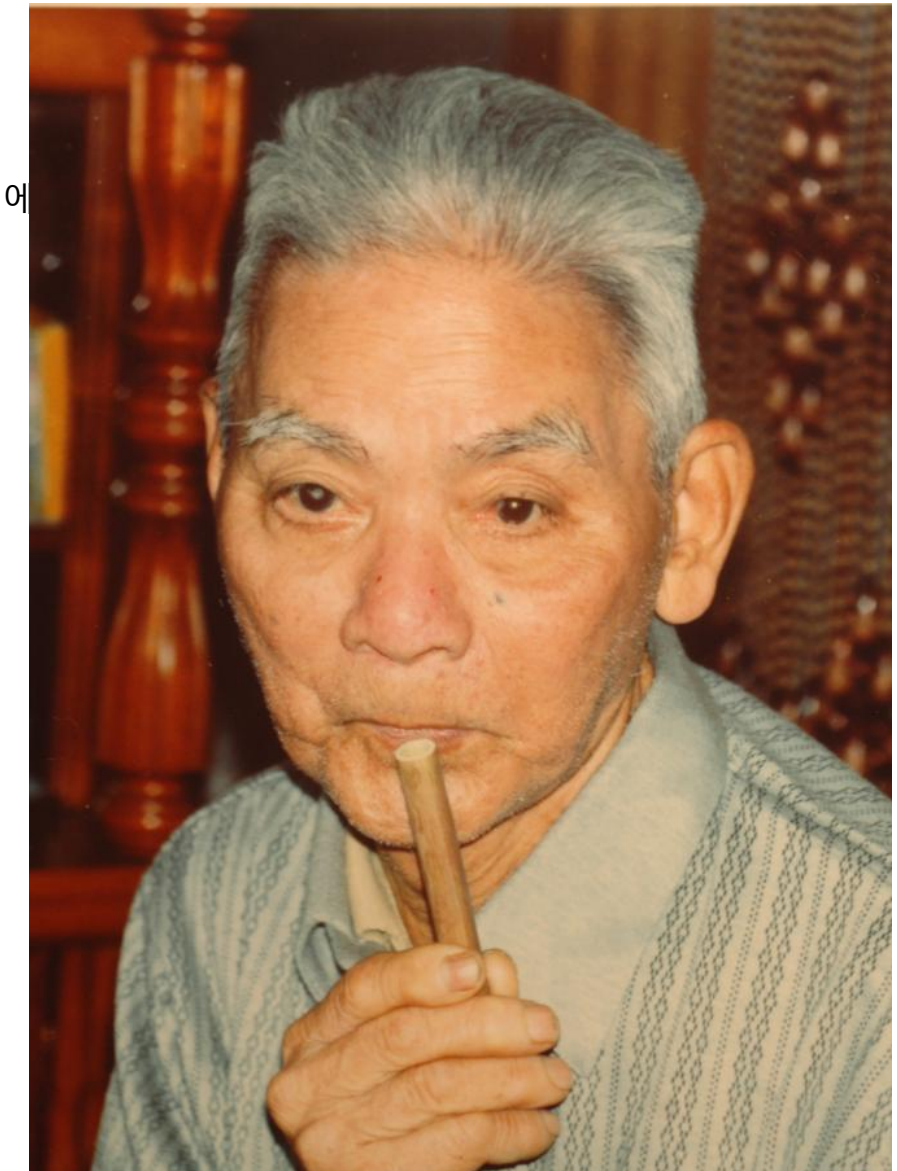
정월 사이에 이앙(移秧)을 하되 풀을 베지
正月間移秧,不鋤草

いりおもて1977年　田植え。あとで除草します



수확기 전에는 사람들이 모두 근신(謹愼)하여,…..수확을 한 뒤에
가늘었습니다.
未穫前, 人皆謹愼,
收穫後乃吹小管,
其聲甚微細。

いりおもて
崎山村の
ダンチクの笛
dadoonubuub



술은 탁주(濁酒)는 있으나
酒有濁而無淸, 漬米於水, 使女嚼而爲糜

いりおもて　1995年頃　今は口で噛んでいません





なぜ、さまざまな禁忌があるのか

- 荒ぶる大自然の力を恐れる
- 予測の不可能な惨事を事前に防ぐ
- 魚とりや猪猟ではそれが多い
- とくに稲作は、数多い禁忌と歌と祈りにうめつくされている

人間の力をはるかに越える台風の力



水がこなくて枯れ果てた水田



田植え後の寒さで曲がって枯れた稲



不幸は未然に予防する

田植え時期には曲がった食べ物を食べないこと



時をわけまえずに歌ってはならない

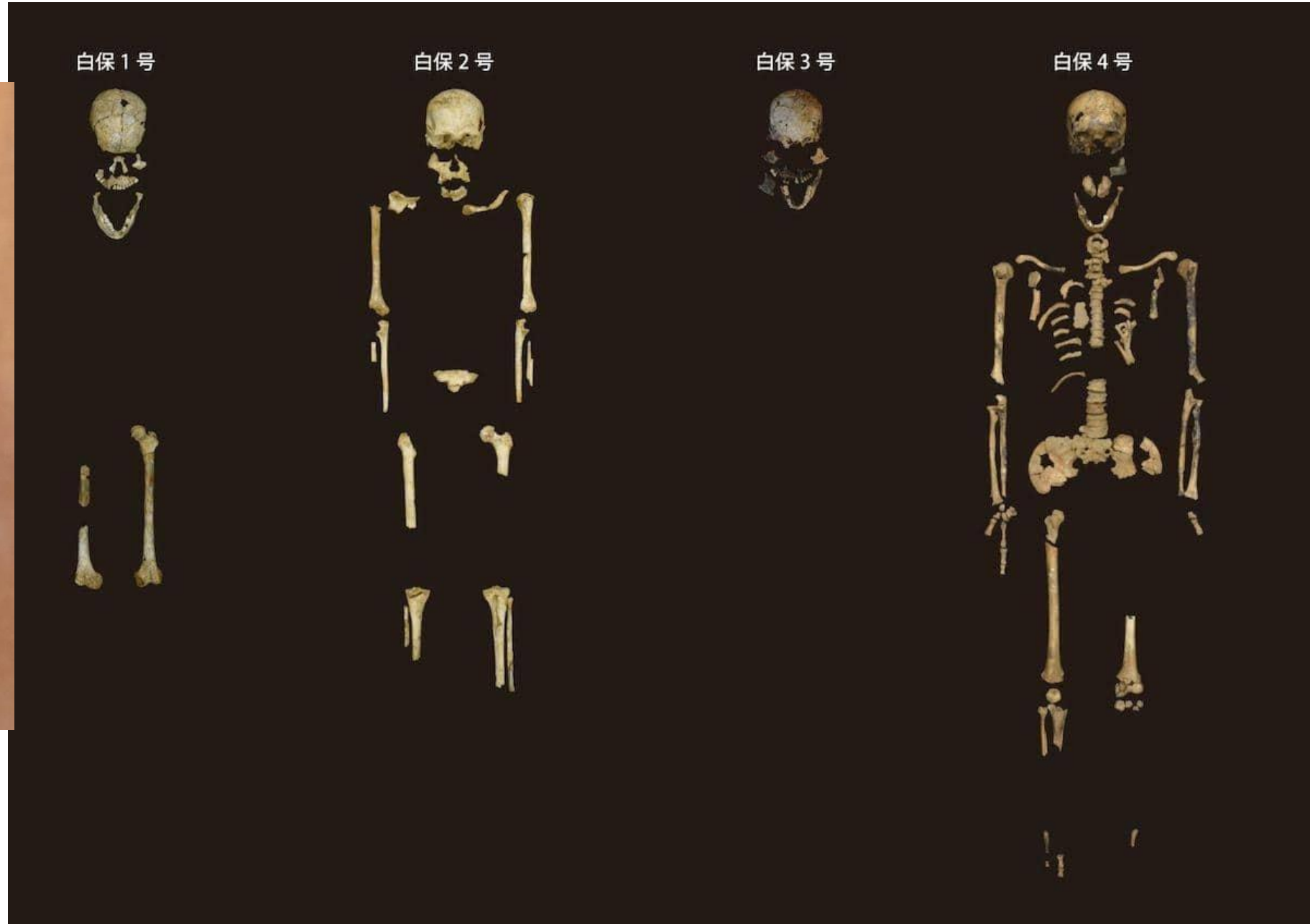
雨乞いの歌をうたうと、きっと大雨になります（田盛雪）



考古学　その後の発見　石垣島白保竿根田原の人骨は2万7000年前



ソンタパリ人



農学　その後の発見　蓬莱米の代表品種　台中６５号は
ジャポニカ稲のもたない台湾在来稲由来の２つのゲノムをもっていた。

Plant Science 242 (2016) 187–194

Contents lists available at ScienceDirect

Plant Science

journal homepage: www.elsevier.com/locate/plantsci

Both *Hd1* and *Ehd1* are important for artificial selection of flowering time in cultivated rice

Fu-Jin Wei[a,b,*], Yuan-Ching Tsai[a], Hshin-Ping Wu[a], Lin-Tzu Huang[a], Yu-Chi Chen[c], Yi-Fang Chen[d], Cheng-Chieh Wu[a,e], Yi-Tzu Tseng[a,e], Yue-ie C Hsing[a,*]

[a] *Institute of Plant and Microbial Biology, Academia Sinica, Nankang, Taipei 115, Taiwan*
[b] *Department of Agronomy, National Taiwan University, Taipei 106, Taiwan*
[c] *Taiwan International Cooperation and Development Fund, Taipei 111, Taiwan*
[d] *Soil and Water Conservation Bureau, Council of Agriculture, Nantou 540, Taiwan*
[e] *Institute of Botany, National Taiwan University, Taipei 106, Taiwan*

歴史
その後の発見

はるかな昔から与那国島に伝えられた、漂流民の記憶を保つ
最後の伝承者の画と語りによる「ふがぬとぅ伝承」
講師：全京秀・安渓貴子・安渓遊地

セミナー会場で無償配布　著者：和歌嵐香Ｎ子（与那国島出身）



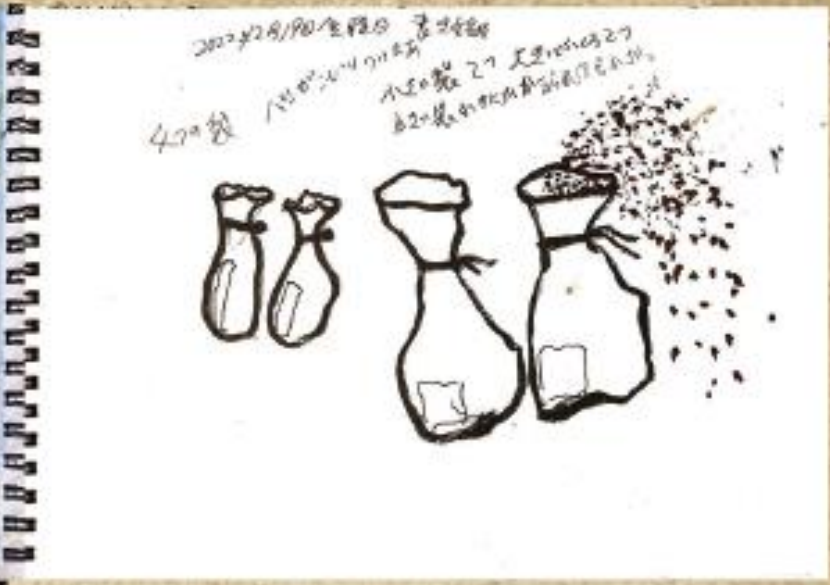
A4 版 170 ページ総カラー／ 2025 年 3 月発行

主催：総合地球環境学研究所 LINKAGE（リンケージ）プロジェクト

民俗
その後
の発見

南の島から届いた稲







N子：うんながぬどぅち（海の友達）がくれた4袋の種子を山の畑にまいた。刈ったら株からまた生えて2度収穫できた。4人兄弟の妹が湿地に種をこぼしたのがきっかけで、水田が始まった。ふがぬとぅのいた時［1477］は水田ばかり。

You study for whom? 誰のために学ぶのですか？
（2nd year student at Univ. Omar Bongo, Gabon）



Pour m’ouvrir au monde

世界に向けて開かれた「自分」のため

J’étudie d’abord pour moi, pour ma connaissance personnelle. J’étudie pour me cacher de l’ignorance entretenue par la société africaine à laquelle j’appartiens. J’étudie pour m’ouvrir au monde, aller en aventure avec d’autres savoirs pour un monde de partage, d’échange scientifique et pas toujours de dominant à dominé.

まずは自分のため。個人としての知識をひろめるため。そして私の属するアフリカ社会を覆う無知から目をそらさぬため。私が学ぶのは、世界に向けて私をひらくため。知の達人達との冒険の旅にでるため。支配する側から支配される側に与えられるだけではない学問の「わかちあい」と「交流」の世界へ向けて。

もっと詳しく知りたい人はワーキングホリデーに
a@ankei.jp

営農型太陽光発電
二〇年間の収入保証



山口県第１号　阿東つばめ農園・おひさま発電所

金のかからぬ
空き家ぐらし

裏山が油田
薪活で婚活

電気まで自給の阿東つばめ農園へ

ひとづかいあらいけど
ワーキングホリデーにおいでね